

温泉サブスク

発表要旨

次の3点について、改善や方向転換ができないかを試みている。

- ・函館の温泉事業と銭湯が無くなった地域の風呂無しアパート等の交通手段について
- ・より広義で考えた函館の幸福度ランキングの低さの改善について
- ・特に高校生が進路活動の際に課題となりそうな働き場所の不足について

1. 背景と目的

函館の幸福度が低いことから、温泉で人々に癒しを与え幸福度をあげることができるのではないかと考えた。函館市西部地区の西側にあった銭湯が閉店し、大町改良住宅等をはじめとした風呂無し物件の人たちが困っていることに着目し、交通手段についての調査を行なっている。

2. 方法

「温泉業者への訪問インタビュー」「銭湯が無くなった地域の方々への聞き取り調査」「市役所職員への聞き取り調査」「AI デマンド交通の利用調査」

3. 結果

温泉でサブスクを行うことができれば好きな時間に入ることができ、何度も温泉人口が増えるのではないかと考えた。しかし、公衆浴場では公衆浴場法等があること、また北海道公衆浴場業生活衛生同業組合に属する同業他社等との関係性から、現実的に温泉でサブスクを行うことはできないとのことだった。各温泉施設の利用者数は、トップシークレットなので公開もしていない。

西部地区の町会の方々が来校した際に、AI デマンド交通の聞き取りをした。町会での認知度が低く、老人には名称等のハードルが高いため、利用している人がほぼいないことがわかった。現在は、銭湯が無くなった地域の温泉までの交通手段の改善を調査し、引き続き活動している。

4. 結論

幸福度ランキングの中の指標のうち、函館が特徴的に低迷している項目を洗い出し、課題設定を見直した。函館が特に低いと感じる指標は『健康』の「要介護認定率」や「平均寿命」、「健康診査受診率」である。「生活」では「生活保護受給率」が調査対象の中核市の中で最下位である。また、『仕事』では「若者完全失業率」や「女性の労働力人口比率」が低迷している。幸福度ランキングを精査し、他の指標の改善のために探究活動をしていこうと考えている。

5. 今後の課題

AI デマンド交通の料金の改善。また、温泉が難しそうなので課題の再設定をすること。現在は「若者完全失業率」について検証するなどをテーマにしようと話し合いをしている。

6. 参考文献

『全47都道府県幸福度ランキング2024年度版』日本総合研究所出版 2024 寺島実郎監修

7. IT・データサイエンスの活用

RESAS、中核市幸福度ランキング